

# 研究 報告

## 和歌山市の施設栽培コマツナにおける コナガの防除対策

和歌山県果樹試験場 **井 ぐち まさ ひろ**  
**井 口 雅 裕**

### はじめに

コナガ *Plutella xylostella* (Linnaeus) は古くからアブラナ科野菜の重要害虫であり、薬剤抵抗性が発達しやすいことから難防除害虫としてしばしば問題となる。近年は全国各地でジアミド系殺虫剤の殺虫効果が低下した個体群が確認され(清水ら, 2014; 福田・林川, 2014; 井上ら, 2015; 國友・金谷, 2016等), コナガによる被害が増加している。

和歌山県和歌山市では主に施設栽培ショウガの後作として7~10月に、名草地区で6 ha, 河西地区で18 ha, 合計24 haでコマツナが施設で栽培されている。当地では2014年ころからコナガの発生が多くなり、コナガ幼虫の食害によるコマツナの品質低下や収量減少が問題となっていた。そこで、和歌山市特産の施設栽培コマツナの安定生産のため、コナガの防除対策の確立に取り組んだ。

### I 発生消長

和歌山市のコマツナ栽培地域におけるコナガの季節消長を明らかにするため、2018~19年にフェロモントラップによるコナガ雄成虫の誘殺数をおおむね1週間隔で調査した(井口, 2021)。名草地区は1~5月にやや多く6月に最も多くなるのに対して、河西地区は1~3月に多く、5~6月は減少した(図-1)。コマツナの作付期間である7~10月は、両地区とも7~8月は少ないが、名草地区は9月以降、河西地区は10月以降に再び増加した。年間総誘殺数は名草地区は河西地区より多かった。

### II 各種薬剤の殺虫効果

コマツナで使用できる主要な農薬14剤について、和歌山市の2地区の施設栽培コマツナで2017年9~10月に発生したコナガ個体群(以後、名草個体群、河西個体群と呼ぶ)に対する殺虫効果を調べた(井口, 2018)。

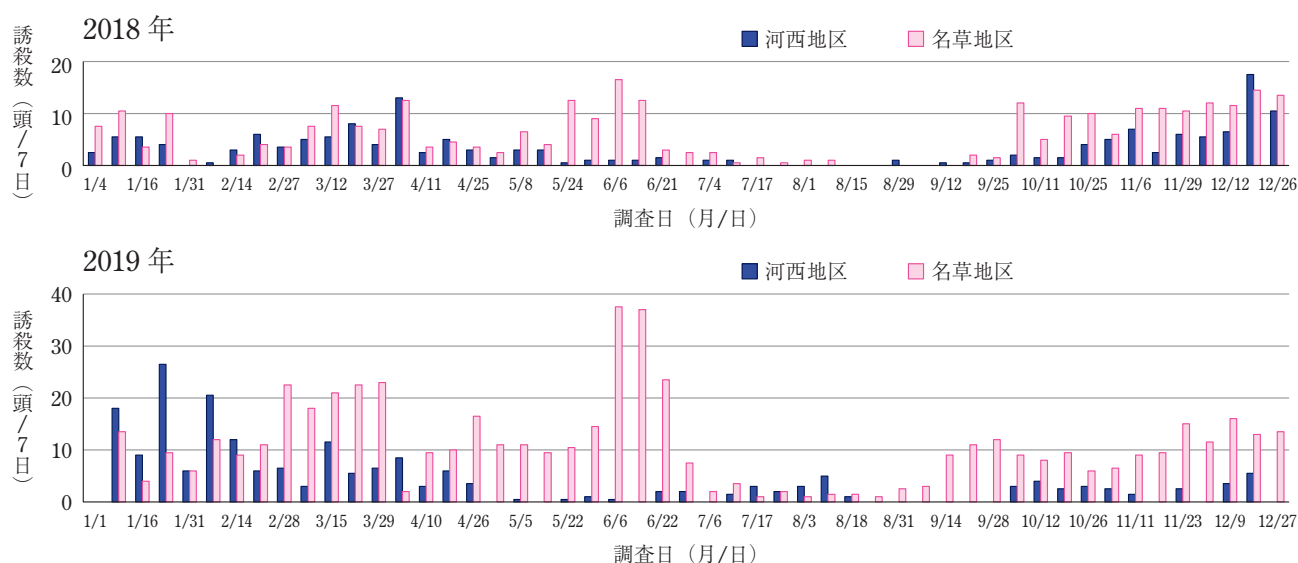


図-1 フェロモントラップによるコナガ雄成虫誘殺数の推移(誘殺数は各地区2箇所平均)

Control of Diamondback Moth, *Plutella xylostella* (Linnaeus) on Komatsuna in Wakayama. By Masahiro IGUCHI

(キーワード: コナガ, コマツナ, 発生消長, 薬剤, 感受性, 交信かく乱, 防虫ネット)